

平成18年10月17日

国土交通大臣  
冬柴 鉄三殿

特定非営利活動法人 白山の自然を考える会  
理事長 石野 洋

## 要 望 書

### 小松白川連絡道路(白山トンネル)計画中止を求める

小松白川連絡道路（通称白山トンネル＝加賀飛騨トンネル）対象域の白山北部は将来世代に伝えるべき日本でも有数の豊かさを持った森林生態系です。ブナ林が広がり絶滅危惧種のイヌワシやクマタカの猛禽類、ツキノワグマやニホンザル、ニホンカモシカの大型哺乳類の生息密度が高い生物多様性豊かな地域です。小松白川連絡道路を建設しないという選択こそが最も望ましい、未来に希望をもたらすことです。いったん調査区間に指定した道路は必ず建設するという旧習にとらわれることなく、建設計画中止の英断を下されることを切に要望致します。

＜白山を横断する大規模道路を新たに建設すべきでない理由＞

- 現世代が利便性のために高規格道路ネットワークの完成を急ぐあまり、生物多様性を損ない、持続可能な社会づくりを遠ざけてはならないこと。
- 小松東京間の時間短縮 20 分程度のため小松白川連絡道路（以下、小松白川道）を建設する必要性は低く、一方新幹線建設が進められており、白山を囲む高規格道路は東海北陸道と中部縦貫道とで充分間に合うであろうこと。
- 交通需要は 2030 年頃にピークを迎えると国交省にて予測されており、仮に小松白川道が建設されても無駄で重荷な存在となりかねないこと。
- 交通量予測が計画を下回る場合がしばしばあるだけでなく、環境というコストを含めれば白山トンネルの建設は決して収支の合うものでないこと。
- 山岳トンネル工法は峠越えに比べ環境への影響が少ないとされているが、山体の地下水系等の生態系に関しほとんど解明されていない現状では、環境への影響は避けられないと思われること。
- また建設や維持管理に要する資源やエネルギーは莫大で、省資源・省エネという持続可能な社会づくりに逆行すること。
- さらに国交省にて検討されている長大トンネルで、「対面通行トンネルは、運転者が緊張するとともに、事故を誘発すると考えられる」（平成 16 年度調査報告書検討結果のまとめ）とあるように、17km や 20km もの長大トンネルでコスト縮減と安全性確保が成り立つか大いに疑問であること。

以 上

平成18年 10月 17日

環境大臣  
若林 正俊 殿

特定非営利活動法人 白山の自然を考える会  
理事長 石野 洋

## 要 望 書

### 小松白川連絡道路(白山トンネル)計画に慎重対応を求める

小松白川連絡道路（通称白山トンネル＝加賀飛騨トンネル）は白山国立公園を横断する通年利用の地域高規格道路として、平成7年度より国と石川県で調査が進められています。3ルート帯（別紙参照）が検討されていますが、「全てのルート帯でイヌワシ、クマタカのテリトリーを通過する」と調査報告書で明記するほど生物多様性に優れた地域なのです。特別保護地区を通過するルート帯が含まれます。

生物多様性を象徴するイヌワシはレッドデータブック 1B 類、特別天然記念物であり、白山地域には約 40 羽が生息しており、私たちは将来世代に伝える使命があると考えております。当会ではこの道路計画を白山国立公園への危機と受け止め、毎年国土交通省に反対申し入れを行い、2004 年には「白山トンネル計画中止」署名に全国の 1,143 団体から賛同が寄せられ国土交通大臣と関係自治体に提出しております。

#### <小松白川連絡道路を建設すべきでない諸理由>

- 計画対象域は将来世代に伝えるべき日本でも有数の豊かさを持った森林生態系であり、ブナ林が広がり絶滅危惧種のイヌワシやクマタカの猛禽類、ツキノワグマやニホンザル、ニホンカモシカの大型哺乳類の生息密度が高い生物多様性豊かな地域であり、重要な国立公園および県立自然公園であること。
- 石川岐阜県境は 12km~22km の長大トンネルを検討していますが、山体から大量の水抜きや岩石の採取を行うトンネルと生態系の関係が明らかではないこと。付近にある特別天然記念物岩間の噴泉塔や温泉地への影響が心配されること。
- 地上部における騒音、ロードキル、景観等の問題も多く発生すること。
- 現世代が利便性のために高規格道路ネットワークの完成を急ぐあまり、生物多様性を損ない、持続可能な社会づくりを遠ざけてはならないこと。
- 小松-東京間の時間短縮 20 分程度のため小松白川連絡道路を建設する必要性は低く、白山を囲む高規格道路は東海北陸道と中部縦貫道とで充分間に合うであろうこと。
- 建設や維持管理に要する資源やエネルギーは莫大で、省資源・省エネという持続可能な社会づくりに逆行すること。

小松白川連絡道路を建設しないという選択こそが最も望ましい、未来に希望をもたらすであろうと思います。現在、小松白川連絡道路は計画帯の絞込み開始の段階です。生物多様性豊かな地域を通過する高規格道路、長大トンネルに危惧を持ちます。平成14年の自然公園法改正時に「生物多様性の確保」が国の責務とされました。環境省におかれましては、事業者との協議に慎重な判断をされるようお願いするしだいです。